

第4回 さくらえ地区小さな拠点推進協議会【12/8実施】 協議内容まとめ

事業目的

複数の公民館エリアの協働によって生活機能が維持・確保される仕組みをつくることで、住み続けられる地域を実現する。

事業推進体制

さくらえ地区小さな拠点推進協議会と江津市の協働により推進。市は庁内の連絡会議を設けて、情報交換、意見交換を行いながら、多角的に桜江地区の生活機能維持のための支援を行う。

事業実施の方向性（テーマ）

1. 地域防災体制構築事業 ～自主防災組織の連携で防災力強化～
2. 若年世代の定住促進事業 ～空き家活用と地域ぐるみの教育環境づくり～
3. 高齢者の生活利便性向上事業 ～コミュニティ移動スーパー実証事業～

事業実施の方法

1. 推進協議会へ交付金を交付してソフト事業を推進
 2. 拠点づくりのための空き店舗改修へ補助金を交付
 3. UIターン者へ桜江地区独自の空き家改修補助金を交付
 4. 川越防災拠点センター（仮称）建設に必要な財源の充当
- ※事業総額 1億5千万円



■協議事項と承認・確認内容

□各取組みテーマの活動報告・進捗について

●地域防災体制の構築

- ①谷住郷避難所運営訓練（炊き出し訓練）の実施
 - ・炊き出し試食会（12/11）
 - 1～2月に予定している防災食炊き出しの事前練習と試食会。

②自主防災組織リーダー研修への参加

- ・11/29～29 益田市で実施
- ・長谷、川越、川戸地区から1名ずつ3名が参加
- ・気象情報の活用、取組事例、図上訓練等を実施

●若年世代の定住促進

- ①改修中の拠点施設2階へ入居 4人（浜田から）
- ②学習環境づくり
 - ・推進協議会でワークショップを行って考え方を検討

●高齢者の生活利便性向上事業

- ①生活利便性向上事業では、第2層協議体と連携
 - ・各地区の民生委員と生活支援コーディネーターを中心に地域の実情を可視化する
- ②取組み方法
 - 1) 情報共有と合意形成
 - ・生活支援コーディネーターが各地区の状況に関係者にヒアリング
 - ・民生委員の会で「買い物の支援」と「交通弱者」をテーマとして協議
 - 2) 成果物
 - ・住宅地図等に個別な支援が可視化されるようプロットする

□アンケート調査について

- 小さな拠点づくりモデル事業の成果を確認するためのアンケート調査を実施する。
- 桜江地区住民の生活機能に関する感じ方を、アンケートで収集して、生活機能を利用しようとする意識の変化を数値化する。
- 各地区ごとに自治会長へアンケート協力と、方法についての説明を行う。
- 実施期間
 - 配布 1月末 各地区の広報誌配布時
 - 回収 2月末まで 各交流センターへ
 - 集計 3月中旬 市担当へエクセルデータ送付

□小さな拠点施設の機能について

1. 拠点として

- 桜江地区のみなさんが求める生活機能を確保するための施設して整備、持続可能な拠点として地域住民の意向に沿いながらも、モデル地区事業終了後も継続できる仕組みをもつ。

2. 基本的な機能

- ①公共交通機関の待合スペース・・・待合室
- ②子どもの学習スペース・・・学習スペース
- ③高齢者と子ども交流スペース・・・学習スペース/待合室
- ④ほか必要な生活機能・・・コインランドリー

3. 持続可能なしくみ

- ①利用時間が限られる機能は、可能な限り時間をずらして場所は共有しながら、利用稼働率を高める。
- ②コインランドリーは地域からの要望が強く、利用頻度も高いと予想できるため、設置要望に応えながらも、利用時に拠点としての意義を知る機会や地域活動参加のきっかけにつなげる工夫を行う。
- ③2階スペースは、施設管理者が事業用に活用するが、地域住民のニーズを把握しながら、地域活動や健康づくり、地域のつながりづくりを目的とした事業を行う。(補助対象外)
- ④施設経営が持続可能となるための経費は施設管理者の事業により賄う。

4. 地域との関係性

- ①さくらえ地区小さな拠点推進協議会は、「子どもの学習スペース」の運営方法の検討や、学習支援ボランティアの人選・募集を行う。
- ②待合室やコインランドリーでは、地域活動や小さな拠点に関する取り組みのプロモーションや意見収集の場としての活用も行う。
- ③2階スペースは、小さな拠点や地域コミュニティ組織が行う事業への貸出しを無料で行える。
- ④2階スペースの居宅部分はUIターン促進として、地域活動への参画依頼や声かけ等によって地域に馴染んでもらうよう関りをもつ。

□子どもの学習環境について（推進協議会ワークショップより）

テーマ1：子どもにつけさせたい力

- 何事にもチャレンジする力
- 思いやる力
- 変化に対応できる力
- 考える力
- 臨機応変力
- グローバル社会に対応する力
- コミュニケーション力
- ICT社会に対応する力
- 学力
- 健康な体と心
- 自主性
- 大人と対等に話せる
- 知らないこと新しいことに恐れずチャレンジできる
- 生活力
- 自然にふれあう生きる力
- 農業体験

テーマ2：そのために今必要なこと

- 情報提供
- コミュニティの場
- 働く場所の提供
- お金をかせぐ大変さを知ること
- 地域を知ってもらう
- 長期休暇に都会の大学から帰ってきた人に学習をみってもらう
- グループ活動(スポーツ等)
- インターネットを使って外国人と会話ができる
- 運動クラブ(学習を伴う)
- 自由な発想(考え)を伸ばす
- 子どもも大人もどンドン参加
- 多文化交流
- ICTを活用した地域課題解決を学ぶ
- 自主性を持たせる
- 山、川などの自然環境を知る

テーマ3：具体的な活動内容

- 英会話教室
- 外国人による語学教室
- 外部から講師を呼ぶ
- 小学生が地元の物産展を企画営業する
- 楽しい集まりにする
- 自己有用感のある活動
- 接客業
- 経営する
- 楽しくないと来ない
- Eスポーツ大会/囲碁大会/将棋ゲーム
- クラブ活動(運動/文化系)
- 場所の提供/資料の提供/物資の提供
- 地域の大人が地域の子どものを教える
- 子ども主体のワークショップ
- つくる大学の活用
- オンラインでも交流の場づくり
- 農作物づくり
- 地域の人材を確保
- 様々な人が参画